

# 厚生委員会 委員会視察報告

令和6年12月10日

委員長 本間 まさよ

視察行程 令和6年11月6日


- 1 とらいふ武蔵野 デイサービス等の運営について
- 2 桜堤公園 いきいきサロン「iki なまちかど保健室」について
- 3 希望の家 滞在型グループホームの運営について

視察者 委員長 本間まさよ

副委員長 小林まさよし

委員 浜田けい子 山本ひとみ 西園寺みきこ 深沢達也

厚生委員会（令和6年11月6日）

日 時	令和6年11月6日 午前9時25分から午前10時05分まで
視察先	とらいふ武蔵野
テーマ	デイサービス等の運営について
目 的	とらいふ武蔵野は、「ユニット型特別養護老人ホーム」、「ショートステイ」、「デイサービス」、「事業所内保育所」を事業として運営している施設である。それぞれの事業の現状や課題、先進的な取組などを学ぶ。
内 容	<p>当日の冒頭に顧問から施設の概要について御説明いただき、施設内の「事業所内保育所」を除く3つの事業を見学した。</p> <p>特徴的なものの一つは、「保育所」を併設していることだ。保育園児が散歩に出かける際にデイサービスの利用者の方々と触れ合う機会がある環境は、利用者にとってとても有益だと考えられる。</p> <p>デイサービス利用者の中には100歳を迎えた方がいるが、クイズなどにも取り組み、かくしゃくとした姿勢が印象的だった。</p> <p>また、デイサービスの利用者の愛犬（子犬）に会いに来る利用者もおり、アニマルセラピーにもなっているようだった。</p> <p>もう一つの特徴は、施設には、御利用者・家族と地域住民の方々が共同で作業するバリアフリーの園芸空間「とらいふあーむ」があることだ。車椅子の方が利用しやすい大型のプランターを用意するなどの工夫があり、残飯から堆肥を作りながら野菜を育てているということだった。</p> <p>「ユニット型特別養護老人ホーム」では、介護職員や看護師の体制について確認したほか、ユニットや部屋の中にも入り見学した。他の施設よりも広いユニットとなっているなど、十分な余裕がある状況だった。入所した時点よりも生活が安定し、体調の回復が図れるということで、この1年で要介護4から要介護2に回復する方が3名いたということだった。</p>
	

成果（参考になった点）、課題等

成果としては、とらいふ武蔵野の先進的な取組として、「とらいふあーむ」や「保育所」を併設していることによる保育園児と施設利用者の交流を確認できたことが挙げられる。また、施設内の現状の実態把握ができたことも今後に生かせるものだと考える。

事業運営における最大の課題は「人材の確保」ということだった。当該施設では、外国人も雇用しているということだが、賃金や過酷な労働環境からか、離職される方もいるようだ。この問題については、少子高齢化が進むことが予想される中では、賃金や労働環境の改善のほか、DXの推進、地域との連携強化、外国人介護人材の受入れ促進などの対策が求められると考えられる。

厚生委員会（令和6年11月6日）

日 時	令和6年11月6日 午前10時20分から午前10時45分まで
視察先	桜堤公園
テーマ	いきいきサロン「iki なまちかど保健室」について
目 的	株式会社みゆうちゅあるが運営するいきいきサロン「iki なまちかど保健室」では、高齢者が地域で健康的で生きがいを持った生活を送るための集いの場である「いきいきサロン」において、どのような活動が行われているのか、実際に介護予防や孤立防止、地域交流といった目的が果たされているのかということを確認する。
内 容	<p>当日は、桜堤公園にて、高齢者の方が体操などを行いながらコミュニケーションを図っていることが確認された。15人程度の参加者がいた。</p> <p>開設当時から参加している方が複数おり、90歳を超えた方もいた。</p> <p>いきいきサロンの会場として公園を利用しているため、天候の悪い時は中止しているそうだが、例年より暖かいとはいえ、11月の公園での開催にもかかわらず、高齢者が元気に体操されていることが印象的であった。</p> <p>視察した委員も一部の体操や、相互に行うマッサージなどに参加させていただいた。</p> <p>輪になって行う、体操などは初めての参加者とも打ち解けることができる効果もあると思われる。</p>
	
成果（参考になった点）、課題等	<p>「いきいきサロン」は、高齢者の介護予防、孤立防止などの観点から有意義な事業であり、多くの方に御参加いただきたいと考えているところだが、圧倒的に男性の参加者が少ない点が問題だと感じた。</p> <p>既に検討されているとは思いますが、男性が参加しやすいプログラムや男性の参加を想定した広報に加え、参加することにインセンティブを与えることも必要かもしれないと考えた。</p> <p>「いきいきサロン」について参加することにインセンティブを与える事例を調べたところ、ポイントカードの導入、達成証や健康グッズのプレゼント、子どもとの交流イベントがあるということだ。</p> <p>参加いただけない層にどのような方がいるかなどを調査し、その方々に対してどのようなアプローチをしていくのか、どのように動機付けしていくのかを調査研究する必要があると感じた。</p>

厚生委員会（令和6年11月6日）

日 時	令和6年11月6日 午前11時から午前11時20分まで
視察先	希望の家
テーマ	滞在型グループホームの運営について
目 的	「希望の家」（精神障害者を対象とした滞在型グループホーム）の運営状況、利用者の生活状況、支援の質、運営方針や理念が実際の支援に反映されているかどうかを確認する。
内 容	<p>今回視察した「希望の家」は、「人間福祉と動物福祉の追究」を理念とするアニスピHDという企業が運営している「ペット共生型障がい者グループホーム」であり、6名の障害者の方（女性限定）が入居しているほか、一匹の犬がペットとして飼われていた。</p> <p>直接入居者の方に会うことはできなかったが、清潔な施設であり、入居者の方々が自立した生活をするにあたり大きな問題はないと感じられた。また、入居者はいかいますという問題はなく、入居者が女性ということもあり、暴力的な対応もないということだった。</p> <p>施設運営について、近隣住民の方からは特に問題とするということはないとのことだ。</p> <p>入居者の自己負担金は、食事代などであり、居住費の自己負担金はない。</p> <p>食事の準備等は入居者それぞれが行い、一堂に会して食事をするということはないとのことだ。</p> <p>介助者は服薬の指導などを行っているとの説明があった。</p>
成果（参考になった点）、課題等	<p>入居に対しての需要が多いということがあり、改めてこれまで以上に障害者の方が自立して生活していく環境を整えることの必要性が高いということが課題だと感じる。このような施設が増えるような支援が必要だと考えられる。</p> <p>ペットを飼うことは、心理的な安定や生活リズムの改善が図られるという効果があると言われていたが、この施設においてもペットとの生活は、入居する障害者の方々に良い影響をもたらしているということが参考になった。</p>

